

2010年2月

中学3年生の受験生を持つ母親 600名に聞いた 『高校受験に関する調査』

～受験のため支出を控えた費用 衣食住 42.8%、レジャー 49.3%、お母さんの小遣い 17.0%～

第一生命保険相互会社（社長 斎藤 勝利）のシンクタンク、（株）第一生命経済研究所（社長 小山 正之）では、中学3年生の受験生を持つ全国のお母さん600名を対象に、標記についてのアンケート調査を実施いたしました。この程、その調査結果がまとまりましたのでご報告いたします。

塾、家庭教師、通信教育について(P.3)

- 塾に通っている子どもは約6割 大都市圏、および世帯年収 600万円超が多い。

中学校の授業だけで志望校に合格できると思うか(P.4)

- 大都市圏で中学校の授業だけでは志望校に合格できると思う割合が少ない。

お子さんの受験のために行ったこと(P.5)

- お子さんの受験する高校を見学に行った 43.8%、試験問題を自分で解いてみた 14.3%。

教育費の負担感について(P.6)

- 85%の母親が教育費の負担を感じている。中学3年間の教育費合計は平均 103万円。

高校受験で教育費がかかるため、取った対策(P.7)

- 衣食住の支出を控える 42.8%、レジャーの支出を控える 49.3%、母親の小遣いを減らした 17.0%。

子ども手当が支給されたら何に使うか(P.8)

- 「授業料に充当する」が 54.2%とトップ。次が「将来の教育費のために貯蓄する」で 41.0%。

日常生活で行っていること、気を遣っていること(P.9)

- インフルエンザの予防接種は約半数が実施済。合格祈念菓子は 23.8%が買っていると回答。

高校受験でお子さんの将来は決まってくるか(P.10)

- 高校受験で子どもの将来が決まってくると思っている母親は7割強。

学歴と資格、どちらが大切?(P.11)

- 学歴派が3割、資格派が7割。

＜お問い合わせ先＞

(株)第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部
研究開発室 広報担当（田代・新井）
TEL. 03-5221-4771
FAX. 03-3212-4470

【アドレス】<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi>

《調査実施の背景》

毎年1月から3月にかけて受験シーズンを迎えます。受験生ご本人も追い込みで大変な時期ですが、受験生を支えるご両親にとっても冬の寒い季節でもあり、お子さまの健康管理など、ご苦労が絶えない時期ではないでしょうか。

今回の調査では、受験生の多い高校受験に焦点をあてました。文部科学省の「平成20年度文部科学白書」によれば、平成20年の中学卒業者は約120万人、高校進学率が97.8%であることから、今年も同じくらいの人数が高校を受験すると考えられます。

今回は、高校受験をする中学3年生のお子さまをお持ちの全国のお母さま600名にアンケート調査を実施しました。

調査方法は、インターネット調査です。毎日苦労しながら受験生をサポートしているお母さま方の姿を少しは浮き彫りにすることができたような気がします。アンケートにお答え頂いた皆様のご協力により、調査内容の一部を発表することができました。お忙しい時期にアンケート調査にご協力いただいた600名の皆様お一人お一人に感謝申し上げます。ご協力いただき、ありがとうございました。

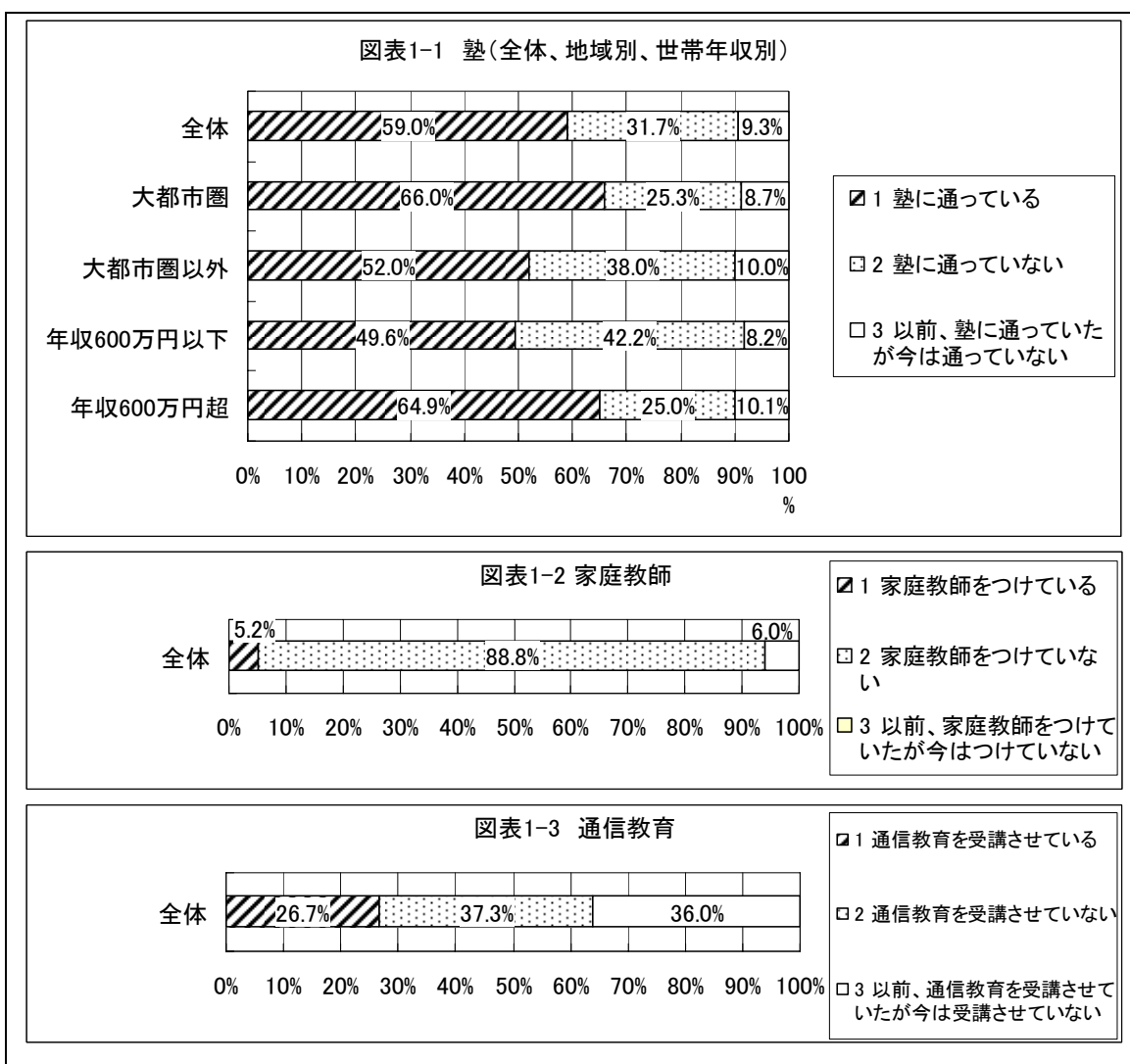
《調査の実施概要》

1. 調査地域と対象 高校受験を予定している中学3年生の子どもを持つ、全国の母親（既婚者のみ）
2. サンプル インターネット調査会社である株式会社クロス・マーケティングのモニター 600名
 <大都市圏> 300名
 首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）
 近畿圏（大阪府、京都府、兵庫県）
 中部圏（愛知県）
 <大都市圏以外> 300名
3. 調査方法 インターネット調査（株式会社クロス・マーケティングに委託）
4. 実施時期 2010年1月調査（1月22～26日）
5. 回答者の属性 性別：女性（既婚のみ、離別、死別は除く）
 年齢：30～59歳（平均43.63歳）
 受験生の定義：中学3年生で高校受験をする者
 （中高一貫校等で受験をしない者を除く）

年齢	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳
人数	4名	79名	269名	213名	31名	4名
構成比	0.67%	13.17%	44.83%	35.50%	5.17%	0.67%

塾、家庭教師、通信教育について

塾に通っている子どもは約6割
大都市圏、および世帯年収 600 万円超が多い



中学3年生のお子さんの塾、家庭教師、通信教育についてたずねました。

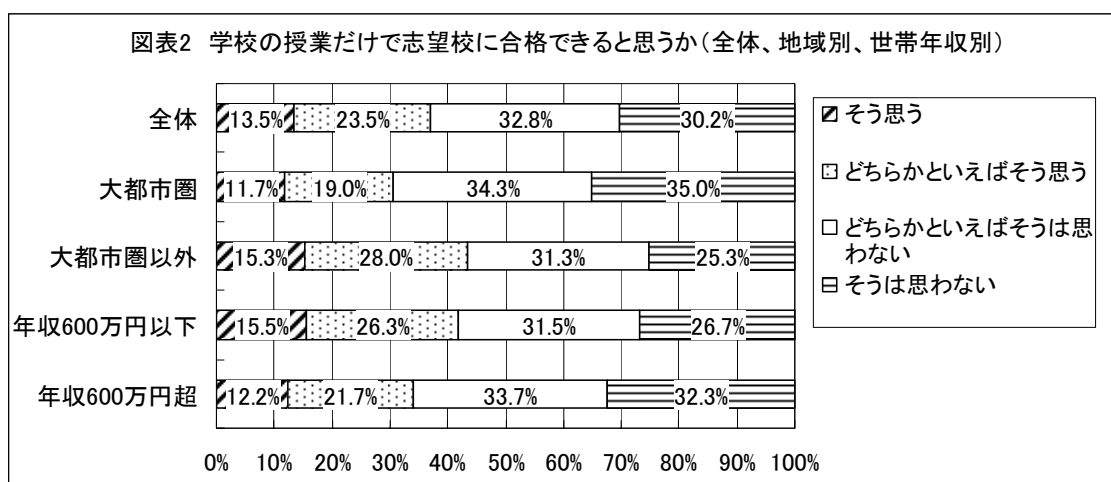
塾については全体で約6割のお子さんが通っていました(図表1-1)。地域別では大都市圏(66.0%)は、それ以外の地域(52.0%)と比較して14%多くなっています。また世帯年収別では600万円以下(49.6%)と、600万円超(64.9%)で15%の差がありました。

家庭教師をつけているお子さんは全体の5.2%とあまり多くありません(図表1-2)。また地域別や世帯年収別では大きな差は見られませんでした(図表省略)。

通信教育を受講させているお子さんは、26.7%でした(図表1-3)。また通信教育を以前受講させていたが今は受講させていないお子さんは36.0%もいました。通信教育についても地域別や世帯年収別では大きな差は見られませんでした(図表省略)。

中学校の授業だけで志望校に合格できると思うか

大都市圏で中学校の授業だけでは志望校に合格できると思う割合が少ない



お子さんが通っている中学校の授業だけで、志望校に合格できるかたずねました。どちらかといえばそうは思わない(32.8%) + そうは思わない(30.2%)の合計は63.0%と、6割強のお母さんが中学校の授業だけでは志望校に合格できないと回答しています(図表2)。

地域別では、「どちらかといえばそうは思わない+そうは思わない」の割合は、大都市圏で69.3%、大都市圏以外で56.6%と10ポイント以上の差がみられます。図表1-1の通り、大都市圏の方が塾に通っているお子さんの割合が多いのは、このような意識によるのかもしれない。

また世帯年収でも上記割合は年収600万円以下で58.2%、年収600万円超で66.0%と差があります。

お子さんの受験のために行ったこと

お子さんの受験する高校を見学に行った 43.8%、
試験問題を自分で解いてみた 14.3%

図表3 お子さんの受験のために行ったこと(複数回答)

	全体	地域別		世帯年収	
		大都市圏	大都市圏 以外	600万円 以下	600万円超
高校要覧等で学校の概要を調べた	70.7%	78.7%	62.7%	65.5%	73.9%
学校の先生に直接相談をした	52.5%	54.0%	51.0%	52.6%	52.4%
塾や家庭教師に直接相談をした	45.2%	51.0%	39.3%	36.6%	50.5%
他の母親から情報収集した	44.0%	46.0%	42.0%	39.7%	46.7%
あなた自身で見学に行った	43.8%	58.3%	29.3%	38.8%	47.0%
試験問題をあなた自身で調べた	22.7%	27.7%	17.7%	20.3%	24.2%
試験問題をあなた自身でも解いてみた	14.3%	16.7%	12.0%	12.1%	15.8%
上記のことは何もしなかった	9.5%	7.0%	12.0%	11.6%	8.2%

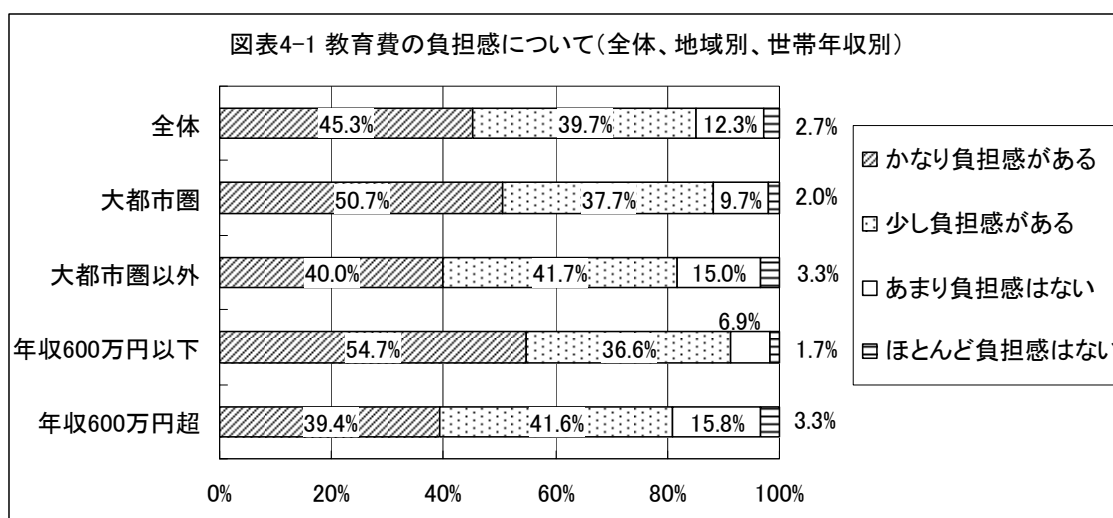
(注) 他方の数値より5ポイント以上多いものは、**太字**で表記した。

お子さんの受験のために行ったことをお母さんにたずねました。7割強のお母さんが本や雑誌、HP等でお子さんの受験する学校を調べています(図表3)。また直接学校に見学に行ったお母さんは4割強になります。また14.3%のお母さんは、お子さんの受験する高校の問題をご自身で解いていました。

全般的に積極的な動きをしていると思われるのは大都市圏のお母さんです。

教育費の負担感について

85%の母親が教育費の負担を感じている
 中学3年間の教育費合計は平均 103 万円



図表 4-2 中学3年間の教育費合計(学校教育費、学校外教育費の合計)

	人数 (名)	割合		平均 (万円)
～50万円	183	30.5%	全体	103.1
50万円超～100万円	192	32.0%	大都市圏	115.1
100万円超～150万円	95	15.8%	大都市圏以外	91.2
150万円超～200万円	65	10.8%	世帯所得600万円以下	73.5
200万円超～300万円	44	7.3%	世帯所得600万円超	121.8
300万円超	21	3.5%		
合計	600			

お子さんの教育費(学校教育費、学校外教育費)の負担感についてたずねました。「かなり負担感がある(45.3%)＋少し負担感がある(39.7%)」の合計は85.0%と、大部分のお母さんが負担を感じていることがわかりました(図表4-1)。

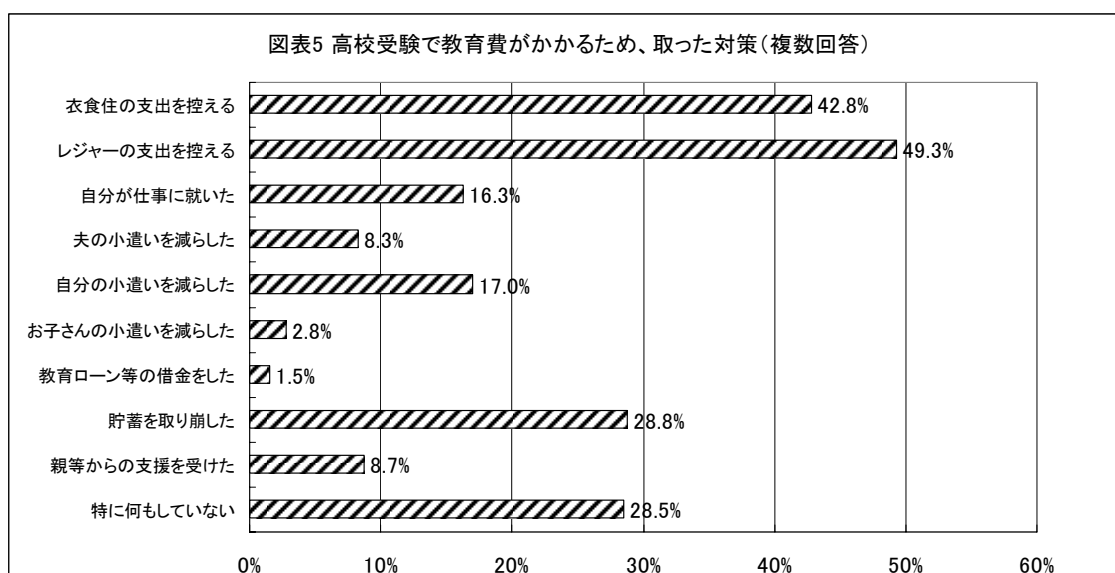
地域別でみると、「かなり負担感がある＋少し負担感がある」の合計は大都市圏で88.4%、大都市圏以外で81.7%と差があります。

世帯年収では600万円以下では91.3%、600万円超では81.0%と、世帯年収によっても差が出ました。

また中学3年間の教育費合計は図表4-2の通りです。平均は103万円となりました。大都市圏および世帯所得600万円超で多くなっています。

高校受験で教育費がかかるため、取った対策

衣食住の支出を控える 42.8% レジャーの支出を控える 49.3%
母親の小遣いを減らした 17.0%



高校受験で教育費がかかるために取った対策についてたずねました。日常の衣食住の支出を控えるは42.8%でした(図表5)。特に世帯年収600万円以下では、この割合が50.4%と高くなります(図表省略)。また日常のレジャーの支出を控えるは49.3%と約半数です。特に大都市圏では53.7%とレジャーを控える傾向が強くなっています(図表省略)。

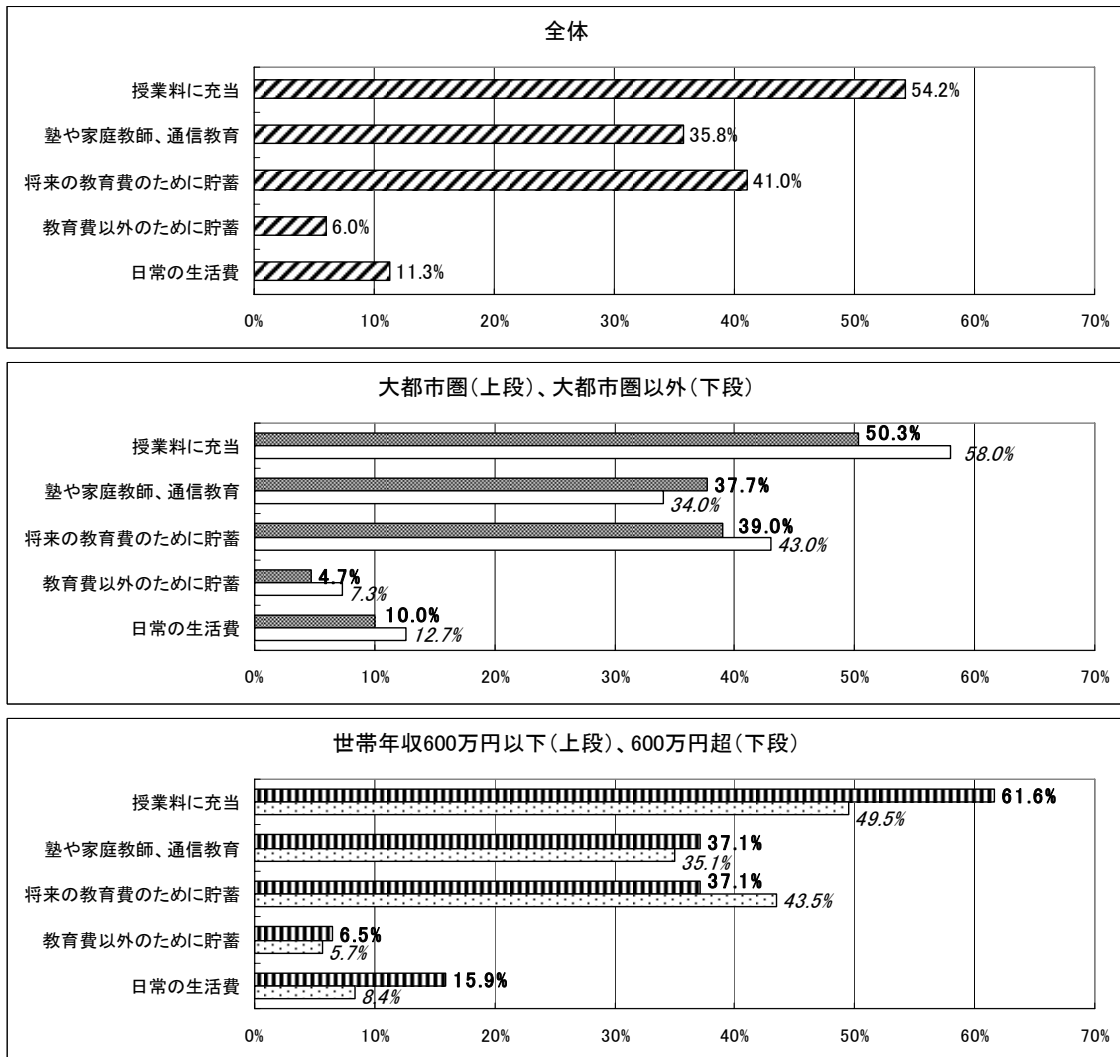
お母さんご自身が仕事に就いたと回答したのは16.3%でした。

また小遣いについてたずねました。夫の小遣いを減らしたのは8.3%ですが、ご自身の小遣いを減らしたと回答したお母さんは17.0%と多くなっています。

子ども手当が支給されたら何に使うか

「授業料に充当する」が 54.2%とトップ
次が「将来の教育費のために貯蓄する」で 41.0%

図表6 子ども手当の使い道（全体、地域別、世帯年収別 複数回答）

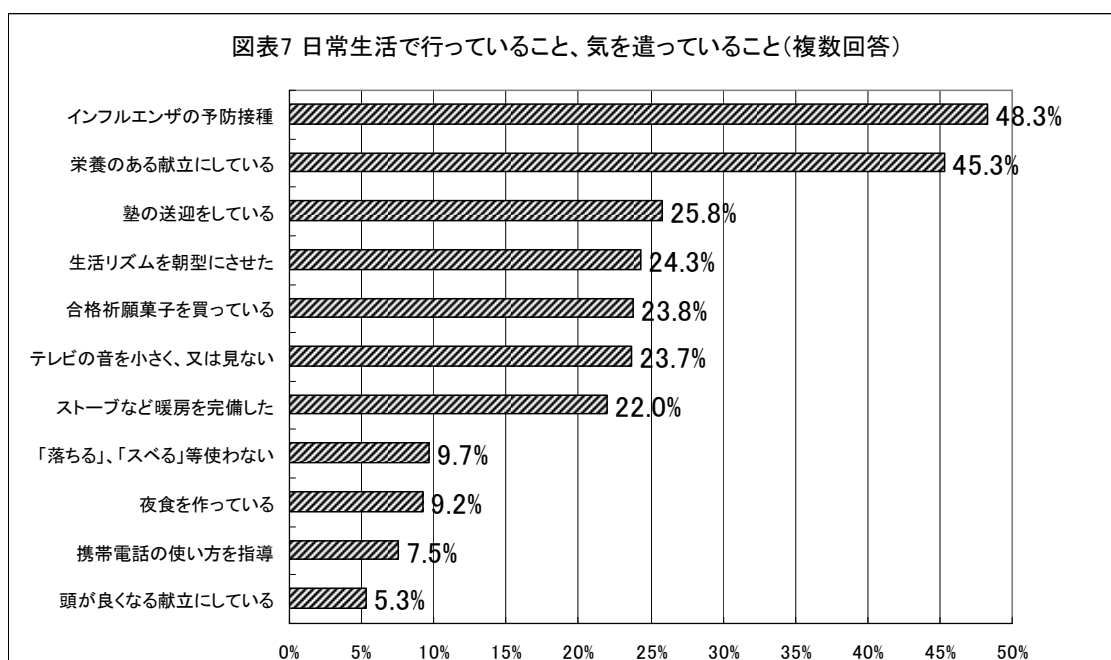


子ども手当が支給されたと仮定したら、何に使うかたずねました。教育関連の費用としては、授業料に充当するが 54.2%、塾等の費用が 35.8%となりました。大都市圏では塾等の費用に (37.7%)、大都市圏以外は授業料に (58.0%) という世帯が多くなっています。また世帯年収別では、年収 600 万円以下で授業料 (61.6%) に使うという世帯が多い結果になりました (図表6)。

将来の教育費のために貯蓄するという世帯は 41.0%です。大都市圏以外および年収 600 万円超の世帯で多い傾向があります。

日常生活で行っていること、気を遣っていること

インフルエンザの予防接種は約半数が実施済
合格祈願菓子は23.8%が買っていると回答



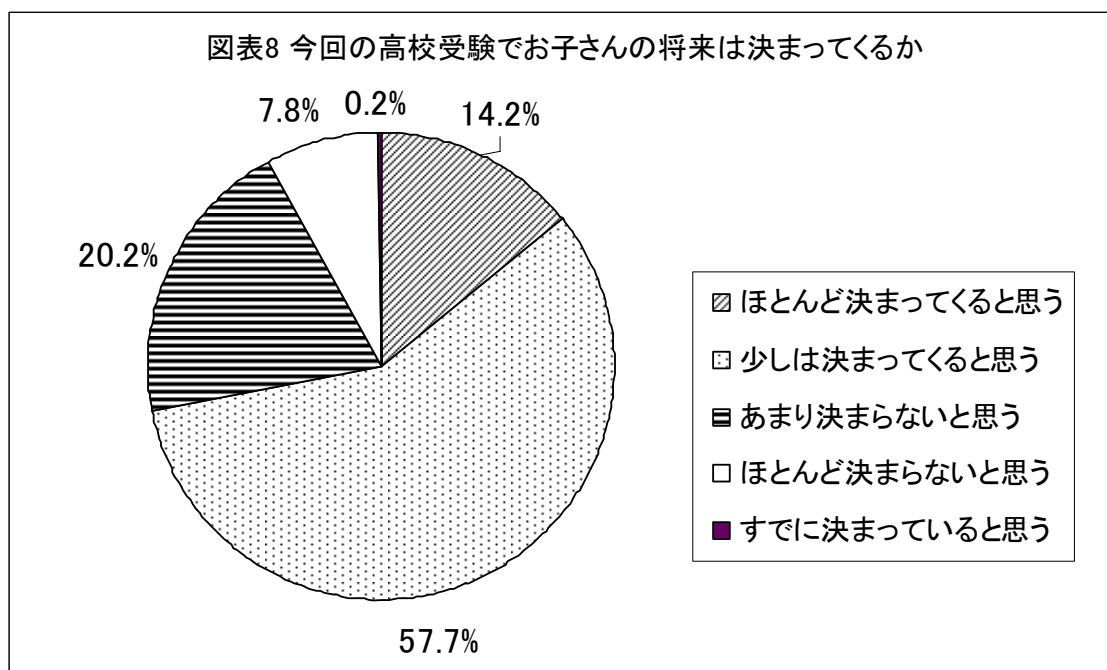
日常生活の中で受験生のお子さんに行っていること、気を遣っていることをたずねました。寒い冬の時期の対策として、インフルエンザの予防接種をさせたお母さんは約半数でトップになりました。

ふだんの食事で栄養のある献立にしていると答えたお母さんは45.3%でした(図表7)。また塾の送迎は4人に1人が行っていると回答しています。

近年ネーミングが話題になり、受験シーズンにはスーパーマーケットに専用コーナーが設置される合格祈願菓子(受験生応援菓子)は23.8%の方が買っていることがわかりました。

高校受験でお子さんの将来は決まってくるか

高校受験で子どもの将来が決まってくると思っている母親は
7割強

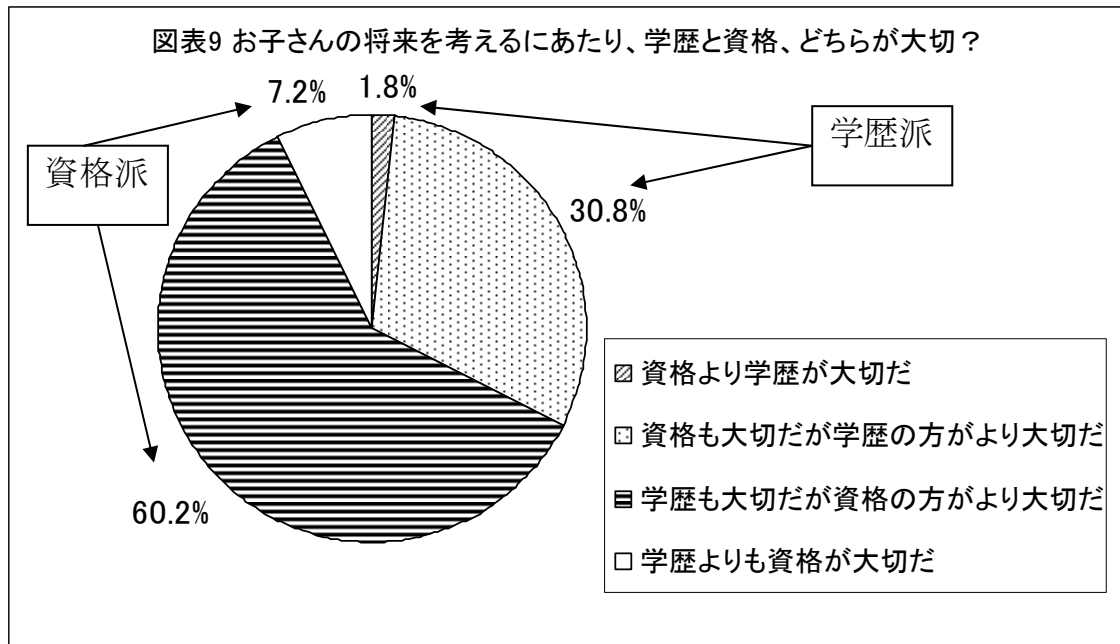


今回の高校受験でお子さんの将来は決まってくると思うかどうかたずねました。「ほとんど決まってくると思う」、「少しは決まってくると思う」の合計は71.9%でした(図表8)。

地域別では大都市圏以外より大都市圏の方が、また世帯所得別では600万円以下より600万円超のほうが「ほとんど決まってくると思う」、「少しは決まってくると思う」の合計が多い傾向はありますが、どちらも数ポイントの差で大きな差はありませんでした(図表省略)。

学歴と資格、どちらが大切？

学歴派が3割、資格派が7割



お子さんの将来を考えるにあたって、学歴と資格についてどちらを大切と思うかについてたずねました。「資格より学歴が大切だ」、「資格も大切だが学歴の方がより大切だ」、「学歴も大切だが資格の方がより大切だ」、「学歴より資格が大切だ」の4項目から選択してもらいました。

一番多い回答が「学歴も大切だが資格の方がより大切だ」で約6割、次が「資格も大切だが学歴の方がより大切だ」で約3割でした（図表9）。

学歴を重視する意見が3割、資格を重視する意見が7割となりました。

《担当者のコメント》

最後に調査項目の中から代表的なものを取り上げます。

「中学校の授業だけで志望校に合格できると思うか」については、全体では6割強のお母さんが授業だけでは合格できないという考えでしたが、大都市圏と大都市圏以外で10ポイント以上の差が出ていました。学校側の対応もあると考えられますが、大都市圏の方が塾の数が多く、全体的に塾に通わせる雰囲気が強いような気がします。隣の子が塾に行くのならウチの子も行かせるという意識が比較的強いのでしょうか。

このことと関連して「お子さんの受験のために行ったこと」で、特に大都市圏のお母さんが受験校の調査、情報収集等を積極的に行っている姿が見えてきます。進学対象の高校の数が多いいことあると思いますが、受験校の見学や実際に問題を解いて見るなど積極的に動いて調査している状況が現れています。

教育費の負担感については大部分のお母さんが負担感を訴えていました。特に大都市圏ではその割合が高くなりますが、塾に通っている割合が高いことも一因と考えられます。

また高校受験で教育費がかかるための対策として、お母さんがレジャーや衣食住の支出を控えながら、夫の小遣いよりもご自身の小遣いを減らして受験生のお子さんを応援している姿が見えてきました。

生活費以外でも栄養のある献立にしたり、インフルエンザの予防接種を受けさせるなど、受験生のお子さんの健康管理に気を遣っていることがアンケート結果に現れています。

それは「高校受験でお子さんの将来は決まってくるか」で7割以上のお母さんが決まってくる（ほとんど決まってくる、少しは決まってくる、の合計）と考えているからでしょう。お子さんの将来のために、お母さんが一生懸命応援しているのです。

最後に学歴と資格についてたずねましたが、学歴派の意見が3割、資格派の意見が7割となりました。最近の大学生等の就職内定率が芳しくない状況をみていて、将来ご自身のお子さんが、就職などで苦労しないように仕事等に役に立つ資格を取って活躍して欲しいと考えているのではないのでしょうか。

(研究開発室 広報担当 田代隆行)